

2019年3月号 簿記論 つぶ問

3問目

【問題】

次の一連の取引の仕訳を答えなさい。仕訳が不要な場合は、仕訳なしと答えること。(問題の便宜上、金額は小さくしています。また、同じく問題の便宜上、現実にはありえない為替相場の変動をしています。)

- ① X1年1月1日に1ドル100円でドル売りの為替予約を締結した。なお、この為替予約はX1年6月30日に実行する予定の1ドルの商品輸出取引について為替変動をヘッジするためのものである。予定取引のヘッジ会計の要件を満たしていることから、繰延ヘッジ会計を適用する。
- ② X1年3月31日に決算をむかえた。為替予約相場は1ドル120円であった。
- ③ X1年6月30日に輸出取引を行い、代金は掛けとした。直物為替相場は1ドル115円、為替予約相場は1ドル110円であった。
- ④ X1年12月31日に売掛金と為替予約を決済し、入出金はすべて普通預金で処理した。直物為替相場は1ドル95円であった。

【解答】

①	(借)	仕 訳 な し		(貸)		
②	(借)	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	20	(貸)	為 替 予 約	20
③	(借)	売 掛 金	115	(貸)	売 上	115
		為 替 予 約	10		繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	20
		売 上	10			
④	(借)	普 通 預 金	95	(貸)	売 掛 金	115
		為 替 差 損 益	20			
		為 替 予 約	10		為 替 差 損 益	15
		普 通 預 金	5			

【解説】

予定取引のヘッジについて、金額を簡単にした確認です。理解が難しい論点であるため他の論点の学習を優先しても良いですが、分かると点数を上乗せできます。

- ① 為替予約の契約を締結しただけであるため、仕訳不要です。
- ② 為替予約相場が1ドル100円→120円となっています。ドル売りの予約であるため、②の時点で締結すれば将来に120円を受け取れたところ、①の時点で100円しか受け取れない締結をしているため、20円分が評価損相当となります。そこで、為替予約を負債として計上するとともに、借方は繰延ヘッジ損益とします。(厳密には20円分がそのまま為替予約の時価となるわけではありませんが、簡便的に20円としています。)
- ③ 予定していたヘッジ対象の売上取引を実行したため繰延ヘッジ損益も取崩しますが、為替予約の時価が10円回復したことから、残りの10円のみを売上と相殺します。
- ④ 直物為替相場95円に対して元の予約為替相場100円であるため、為替予約によりトータルで5円のプラスとなります(④時点でいったん直物1ドル95円でドルを買い、同時に予約の決済で1ドル100円で売れば、差額5円受取となる)。また、③の予約為替相場→④の直物為替相場で15円変動したため、これは売掛金の決済から生じた為替差損益と相殺します。

①先物100円→③先物110円の差である10円(予約による損)は③時点の売上と相殺、③先物110円→④直物95円の差である15円(予約による益)は④時点の売掛金から生じた為替差損益と相殺となります。そして、売上と為替差損益(ヘッジ分を含む)をすべて集計すると100円となり、取引全体で見れば為替予約によるヘッジ取引で直物為替相場とは関係なく当初の為替予約相場である1ドル100円で取引を行っていることとなります。